



# 日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16 ・ ☎ 03-3951-1101 ~ 2 ・ Email: jbts@jbts.ac.jp

2024年9月10日

第176号

発行人 神保 望

【後援会献金口座】  
郵便振替：  
00110-3-6435  
加入者名：  
学校法人聖経学園  
日本聖書神学校



【巻頭言】

## 夜明け前の連帯

教授 水谷 勤

今号の内容

巻頭言	1
総合演習始まる	2
後援会報活動報告	3
決算報告	3
学事報告・個人消息	4

9月に入り、神学校の後期始業礼拝の同日に行なわれるのは、夏期伝道実習報告会である。今年も神学生たちの、恵み豊かな夏の経験が分かち合われる。そして10月第二主日の神学校日（あるいはその前後）には、多くの神学生たちが教会での礼拝説教奉仕に遣わされる。この季節は、特に教会と神学生たちとの触れ合いの機会が多く持たれる時期であると思う。かく言う私も、かつて夏期伝道実習に参加し、実習先では牧師館や教会を支える信徒の方々のお宅にホームステイをさせていただいた。寝食を共にし、祈りを共にする信仰者の家族的交わりの経験は、夜学で慌ただしく生活する、自らの狭い認識の殻が開かれる機会であった。自分が大きな神の国の現実に身を置いていることを、今も思い起こさせてくれる基盤となっている。

旧約聖書のエリヤ、エリシャの時代にも預言者たちの養成が為されていたようである。ギルガルの地で、預言者の仲間たちが共同生活をしていた様子が記されている（列王下4:1-44）。生活の窮乏や病といった苦悩が、仲間とその家族、そして彼らを支える人々を襲うが、神が共にあることを示されていく。私たちは、預言者はそれぞれ孤高の存在であるかのように考えることがあるが、預言者もまた他者の存在と共に神の前にある。この基盤への気づきと信頼は、信仰者にとって大切な要素ではないだろうか。殊に神学生にとっては、学びの時期にこそ深められていく恵みであると思う。

また預言者たちは、良き思想的伝統において繋がっていた。例えばエレミヤは、ホセアの使信に精通し、北イスラエルで起こったことは、南ユダでも避けられないことを確信して活動した。その召しによってエレミヤ自身が危機的状況に追い込まれた際には、預言者ミカの言葉を知っていたユダの長老たちがエレミヤを弁護して救った（エレ26:17-19）。過去の預言者の言葉でありながら、その言葉が語られた状況に学び、動かされた人々がいた。

そのようにして、一時であっても支え合いが形として生まれたと言えよう。彼らは、何において一致し、連帯していたのだろうか。これらの預言者たちは、人間や状況に対する楽観と安易な希望に否を唱えた。単純な歴史観に依るのではなく、むしろ人間自身は自らを救う根拠も力も持ち得ないという現実を直視することから始めねばならぬ姿勢を貫いている。

先日、ある小エッセイを読んだ。ある新聞配達の青年が、先輩から交番に真っ先に配達するように教えられたという。その青年と出会い、思い出として語る当時の巡査は、その理由をある日青年に尋ねた。すると辺りがまだ寝静まっている頃、その街を見守っている人に、いち早く新聞を届けるようにと先輩に教えられたと。社会を守る人と、その様子を伝える人が繋がり、同じ仲間として「お疲れ様です」と交わす様子を回想している（『新聞配達に関するエッセーコンテスト2023』『あの日の青年』本田美德）。その言葉は、夜明け前に働く人だけが繋がり合える挨拶であろう。そしてまた、私たちもその挨拶の言葉を共有することのできる者かもしれないと勝手ながら連想した。世の中に御言葉を届けようと説教準備に励む夜明け前。そして世の様相に希望を持たない状況が絶えることがないという長い夜にあって、それでも夜明けを信じ遣わされている私たち。そこに連帯があることは忘れがちである。

「私の魂はわが主を待ち望みます／夜回りが朝を、夜回りが朝を待つにも増して。」（詩編130:6）。神学校の礼拝では、今年度から聖書協会共同訳を使用するようになった。そしてこの箇所では「見張り」（新共同訳）が、「夜回り」と訳されたことを旧約の先生から教えていただいた。まだ言い慣れていないためか多少舌を噛みそうにもなるが、「見回る」という、状況に対して能動的に観察する姿勢を読み取ることができよう。そして、同時に主の教会に遣わされている者が与えられている、あの夜明け前の連帯を思い起こしたい聖句である。

# 総合演習始まる！

## 総合演習Ⅰ 小林祥人（教授）

「総合演習Ⅰ」は、聖書に見られる差別的表現をはじめ、現代において問題とされる箇所を見ていくということで、菅原教授と私・小林が担当した。前期は特に旧約と旧約続編を概観した。もちろんこれは、限られた時間の中で一部に触れたに過ぎず、これを手掛かりとして更なる学び（神学生としてだけでなく、牧会の現場にあっても）に展開していくことを望んでいる。

聖書における差別などの諸問題について、それをただ「あります」「ありま

せん」、と一言で片づけるだけでは適切な処理とはいえない。聖書が聖霊より示された神の言葉であると同時に、人間によって書かれた文書・文学であるならば、私たちには、実践の中でその両側面をどのように調和させていくかという課題があるからである。そのようにして向き合うべき聖書箇所は枚挙にいとまがないが、授業では、比較的よく知られた箇所、ときにはキリスト教に大きな影響を与えたとおぼしき箇所にさえ、そうした内容が含まれてい

ることなどが指摘された。またこうした聖書箇所の解釈について、その歴史的背景や教派的違いなどについても取り扱った。

様々な現象が派生する現代において、授業で取り扱ったような聖書箇所について、即時的な解釈を導き出すことは容易ではない。しかし、少なくとも聖書にあるそのような文言に、敏感に取り組む感覚を手に入れたいとの願いを神学生たちと共有することはできた。後期からは新約について学びを進める。

## キリスト教研究所「支配の力にあらがう聖書解釈を目指して—聖書のポストコロニアル批評」

6月24日の全校共通総合演習は、キリスト教研究所の企画で「支配の力にあらがう聖書解釈を目指して—聖書のポストコロニアル批評」と題した安田真由子さんの講演会を持った。安田真由子さんは2021年シカゴで博士課程を終えられた新約聖書学者。現在はルーテル学院大学や農村伝道神学校などで教え、またアメリカ福音ルーテル教会のアジア太平洋地区ジェンダー正義コーディネーターとして働いてもおられる。

植民地支配の経験が世界にもたらしている現状の中で「ポスト」コロニアルとは「起こったことをそのまま引き

受けて生きることを意味する」と安田さんは言い、そのうえで聖書のポストコロニアル批評の2つの軸を「聖書そのものが帝国主義や植民地支配に使われてきたことの反省」と「聖書テキストが物語る帝国支配と支配への抵抗、または支配に対する交渉術を読み解くこと」とする。最終的には、わたしたちに問われるべき聖書が支配に加担してきた歴史を問う試みとして、「万軍の主」「平和の君」「神の国」などローマ帝国の皇帝表象に結び付けられていた語彙を用いずにキリスト教を想像し、構築する可能性を探ることなど提案する。

柳下明子（キリスト教研究所長）



本講演を通して、ポストコロニアル批評との出会いは無自覚に内面化された自らの帝国主義的思考の枠組みを不断に問い直すことと知らされた。出席者の間にはさまざまな反応があり、ポストコロニアル批評からそれぞれが自分の立場を問われる経験であった。

## 牧会的ケアワークショップを受講して 鷲谷義和（3年）

昨年に引き続き、今年も藤崎義宣先生（久が原教会牧師）による牧会的ケアワークショップを受講させて頂いた。実に多くの気づきを与えられたが、その一部をお分かちしたい。

まず「ひとの話をどこで聴くのか？」との問いかけがあった。答えは「私の全身全霊で聴く」のである。現代人はあまりにも理性偏重で身体感覚が鈍くなっている。しかし、ヘブライ語の「知る（ヤーダー）」は単なる知的理解を超えた体験的、全人格的な

「知」である。ゆえに、相談者の話を聴くときは、自分の全身全霊で聴くのである。すると聞いているうちに身体的にも痛みや不調を感じたりする。それが正常な反応なのである。次に、我々が相手の話しの途中で、何か解決策を教え始めてしまうことがある。実はこれは相手のためではなく、聴き手（すなわち私）自身が「自分を救いたい」からなのである。つまり、相手の話を聴くうちに耐えられなくなって、「聴き切る」ことができないのである。

さて、このように全身全霊で相手の話しに耳を傾け、ひたすら聴き切るとどうなるか。疲れます、、、。そのときはどうすれば良いのか？ 藤崎先生は「休みなさい」「神さまでさえ、6日間働いたら一日休まれたではないですか。どうして我々人間が休まずに働き続けることができますか？」と語られた。教会の現場ではさまざまな困難も伴うが、主の御前で安息することを忘れることなく、使命を果たし続けたいと思わされた。

# 後援会活動報告



5月第三日曜の19日に日本聖書神学校創立78周年記念の集いを開催いたしました。

埼玉新生教会の平澤昇牧師(39期)に御言葉の取次ぎをしていただき、お集まりいただいた皆様と共に記念の礼拝をお捧げしました。今年はペンテコステと重なったためご都合が付きなかつた方も居られましたが、YouTubeによる同時配信を視聴する形で参加してくださった方もあり感謝です。奨学金支給認定式では12名の神学生に奨学金支給の認定書が授与されました。

日本聖書神学校の奨学金は、いつも日本聖書神学校の後援会のためにお祈りくださっている全国の諸教会、そしてそこに連なる信徒の皆様から寄せられた貴重な献金から拠出されていることを覚え、神学生に代わって改めて感謝御礼申し上げます。

来年(2025年)も5月18日(第三日曜)に第79回の創立記念の集いを開催いたします。皆様どうぞ今から御予定に入れていただき、ご参加くださいますようお願いいたします。又、遠方の方はYouTubeによる同時配信もいたしますのでご視聴いただければ幸いです。

次に献身志願者の集いに関するお願いです。今年の第13回献身志願者の集いは、皆様のお祈りのお陰もありません。是非その方が献身志願者の集いに参加されるようお誘い、お声掛けをしていただきますようお願いいたします。

献身志願者の集いですが、過去のデータでは参加者の半数近くの方々が日本聖書神学校に入学されています。従って参加者が多ければ多いほど神学校に入学してくださる方が増し加えられる可能性が高くなるということです。2025年の第14回献身志願者の集いは7月20日と21日の開催が予定されています。どうぞ献身志願者の集いを憶えてお祈りいただきますようお願いいたします。特に同窓会の諸先生方には信徒の方で献身の思いを持って居られる方あるいは是非伝道者になってもらいたいと思うような方が居られましたら、たとえまだその方の献身の思いが明確でなくても構いません、是非その方が献身志願者の集いに参加されるようお誘い、お声掛けをしていただきますようお願いいたします。

(菊池公平後援会長)

# 決算報告 2023年度会計について

同窓生、諸教会の皆様には日本聖書神学校のためにお祈りいただき、それぞれ厳しい状況の中にも関わらず、学校運営に多くの献金を捧げてくださり、深く感謝いたします。

2023年度の学校法人会計は、後援会から1400万円のご寄付を頂くとともに、学校債の返済分900万円のご寄付を頂いたこともあり、学習環境整備基金を2000万円に積み増すことができました。学校債の概ねの返済に加

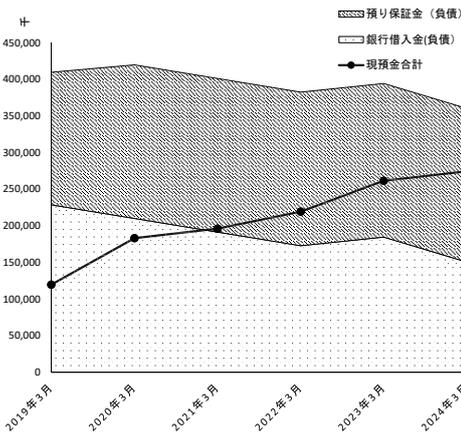
えて、借入金の返済も予定通り行うことができました。

また、収益事業会計は施設利用料収入が前年度比271万円増加しました。預り保証金引当金に4120万円を積み増すことができ、資産総額に対する負債総額の比率は前年に引き続き改善しました。負債比率は今後も改善の必要はありますが、順調に返済を行っております。

現在理事会・合同委員会では安定した学校運営のため、老朽化したテナントビルの問題等様々な課題の検討を続けております。

昼は働き夜学ぶ、召命を受けた学生のために日本聖書神学校は学校設備や研究環境を充実させ、この地で存続していく必要があります。引き続き皆様のお祈りとお支えをお願いいたします。

(松脇達朗 総務部長)



区分	部門	科目	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
			実績	実績	実績	実績	実績	実績
経常収入	学校	学校計	50,954,467	50,540,845	45,706,059	52,177,379	101,925,630	76,303,125
	収益	収益事業計	128,071,089	136,966,592	141,652,808	146,293,149	151,645,717	154,276,412
		経常収入計	179,025,556	187,507,437	187,358,867	198,470,528	253,571,347	230,579,537
経常支出	学校	学校計	70,001,278	65,454,373	60,397,987	62,299,607	65,625,390	67,107,605
	収益	収益事業計	52,651,344	44,133,055	41,227,565	44,816,532	78,961,365	43,044,700
		経常支出計	122,652,622	109,587,428	101,625,552	107,116,139	144,586,755	110,152,305
		経常収支差引計	56,372,934	77,920,009	85,733,315	91,354,389	108,984,592	120,427,232
		財務収入計	174,138,445	148,506,386	82,279,827	167,737,069	53,081,717	6,518,981
		財務支出計	190,824,674	247,972,469	153,266,454	251,932,994	159,748,460	162,158,259
		財務収支	-16,686,229	-99,466,083	-70,986,627	-84,195,925	-106,666,743	-155,639,278
		総合収支	<b>39,686,705</b>	<b>-21,546,074</b>	<b>14,746,688</b>	<b>7,158,464</b>	<b>2,317,849</b>	<b>-35,212,046</b>
		前年度繰越資金	72,870,621	112,557,326	91,011,252	105,757,940	112,916,404	115,234,253
		当年度収支	39,686,705	-21,546,074	14,746,688	7,158,464	2,317,849	-35,212,046
		次年度繰越資金	<b>112,557,326</b>	<b>91,011,252</b>	<b>105,757,940</b>	<b>112,916,404</b>	<b>115,234,253</b>	<b>80,022,207</b>
		学校債残高	84,380,000	69,380,000	60,380,000	46,390,000	45,250,000	3,750,000
		銀行借入金残高	228,685,000	210,025,000	191,365,000	172,705,000	185,060,000	150,444,929
		預り保証金	181,000,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000
		保証金引当預金残高	0	58,800,000	63,800,000	78,805,868	108,805,868	150,006,844
		奨学金預金残高	7,700,000	27,220,228	27,220,500	28,180,468	28,180,468	28,180,468
		学習環境整備積立金					10,000,000	20,000,000

## Diary 学事報告

2024年4月～8月

- 4月5日 入学始業礼拝、説教「神の言葉と愛にとどまる」神保 望校長。新入生11名(正科生2名、聴講生9名)入学。教授就任式(細井茂徳教授・水谷 勤教授)
- 4月5日 教授会(第1回)
- 4月8日 前期授業開始
- 4月10日 学報(175号発行)
- 4月23日 学生自治会総会
- 5月9日 創立記念日
- 5月13日 教授会(第2回)
- 5月14日～16日 ペンテコステ立証祈禱会
- 5月19日 創立78周年記念の集い、開会礼拝説教「思い起こすべきこと」平澤昇牧師(埼玉新生教会・39期)、後

- 援会報告・奨学金支給認定式、神学生との交わり
- 5月20日 後援会役員会
- 5月20日 第13回献身志願者の集い準備会
- 6月3日 実習教会牧師との懇談会
- 6月3日 図書館運用委員会
- 6月3・10日 全校共通総合演習「牧会的ケアワークショップ」、講師：藤崎義宣牧師(久が原教会)
- 6月7日 理事会(第293回)
- 6月10日 評議員会(第227回)・理事会(第294回)
- 6月17日 教授会(第3回)
- 6月24日 全校共通総合演習「支配の力にあらがう聖書解釈を目指して―聖書のポストコロニアル批評」、講師：安田真由子氏

- 7月1日 献身志願者の集い準備会
- 7月8日 理事会(第295回)
- 7月14～15日 第13回献身志願者の集い、開会礼拝(神保 望校長)、献身の喜び(大久保一秋牧師・鷲谷義和神学生)、御言葉・音楽・静思のとき、朝の礼拝(奨励：小林祥人教授)、後援会から(菊池公平会長・村上信男役員)など、参加者9名
- 7月17・23・24日 前期補講日
- 7月25・26・29日 精神医学特講
- 7月26・29日 前期試験日
- 7月29日 献身志願者の集い反省会
- 7月31日 教授会(第4回)
- 7月31日 卒業論文中間発表会
- 8月19～21日 卒業生研修会(テーマ「津軽伝道・本多庸一に学ぶ」、同窓会総会、於青森県平川市)

## 個人消息

## ■神保 望 校長

- 4月19日 NCC 教育部感謝交流会に出席
- 4月21日 日本基督教団東京教区・西東京教区春季墓前礼拝で説教
- 5月7日 日本基督教団東京教区常置委員会に出席(年複数回)
- 5月11日 宣教協力学校協議会に出席
- 5月24日～25日 日本神学教育連合会(JATE)総会・懇親会に出席
- 5月26日 祖師谷教会礼拝で説教・伝道師就任式に出席(祝辞)
- 5月28日・29日 日本基督教団東京教区総会に出席
- 6月2日 信濃町教会創立100周年記念礼拝に出席(祝辞)
- 6月9日 にじのいえ信愛荘礼拝で説教
- 6月16日 小石川白山教会牧師(2名)就任式に出席(祝辞)
- 6月17日 同窓会拡大役員会に出席(献身志願者の集いアピール)
- 6月23日 代々木教会礼拝で説教
- 6月24日～26日 日本基督教団新任教師オリエンテーションに出席
- 6月29日 日本宣教会(JMS)に出席
- 7月21日 板橋大山教会牧師就任式に出席(祝辞)
- 7月27日 池袋朝禱会で奨励
- 7月29日 日本基督教団宣教研究所委員会に出席(年複数回)
- 8月4日 田尻教会礼拝で説教
- 校長として理事会、評議員会、教授会、校務会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者準備委員会に出席
- その他適宜面接・人事相談・学生面接を担当して執務執行

## ■荒瀬牧彦 教授/教務部長代行

- 6月3日 日本賛美歌学会運営委員会
- 6月11日 フェリス女学院高校宗教講演会
- 6月24日 社会福祉法人ナオミの会評議員会
- 6月25日 日本実践神学会役員会
- 6月30日 カンパーランド長老教会(CPC)高座教会説教
- 7月24日 賛美歌工房ワークショップ於日本聖書神学校
- 7月24日 CPC 東京3教会合同祈禱会での証し
- CPC 田園教会牧師の執務。CPC 教職委員長・礼拝書委員・アジア宣教委員、JBTS 教務部長代行・理事・評議員・寮監、御茶ノ水スタンディング呼びかけ人、賛美歌工房代表としての活動
- 執筆：『礼拝と音楽』201号・202号「主日礼拝に備えて」(賛美歌)、202号「植物のイメージで紡ぐ歌と祈り：カルヴァン礼拝シンポジウムでの晩禱」、Imagining Japanese Hymns in a world God imagines, "The Hymn" Vol.75 No.1 Winter 2024 (米国カナダ賛美歌学会大会での発表：共同執筆)

## ■小林祥人 教授

- 4月22日 同窓会神奈川支部会にて講演
- 5月29日 同窓会関東支部会に出席
- 6月19・20日 茨城キリスト教学園中学・高校にて礼拝説教
- 6月25日 同窓会千葉支部会にて講演
- 同窓会常任役員としての執務執行
- 取手伝道所牧師としての執務執行

## ■菅原裕治 教授

- 東京聖三一教会牧師としての執務執行
- 日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2024年度秋期試験を監修)

- 日本聖公会東京教区聖職試験委員会委員長を継続(2024年度執事試験を監修)
- 日本聖書神学校図書館長、評議員としての執務執行

## ■細井茂徳 教授

- 4月10日 上星川幼稚園入園式に出席、祝禱
- 4月24日 青山学院大学チャペル礼拝説教(相模原キャンパス)
- 7月24日 青山学院キリスト教理解関連科目担当者懇談会に出席
- 上星川教会牧師としての執務執行
- 全国教師会理事としての執務執行
- 青山学院大学非常勤講師「キリスト教概論」を継続

## ■水谷 勤 教授

- 4月21日、6月23日、7月21日、8月18日 四街道教会にて礼拝説教
- 7月28日 池袋西教会にて礼拝説教

## ■柳下明子 教授

- 7月9日 東洋英和女学院小学部礼拝奉仕
- そのほか、番町教会主任担任教師、日本聖書神学校キリスト教研究所所長、日本聖書神学校評議員、日本基督教団東京教区東支区常任委員としての執務。
- 『信仰生活ガイドー祈りのレッスン』日本キリスト教団出版局、2024年5月24日出版編

## 2025年度秋期入学試験(正科生)

## ★出願期間

2024年10月1日(火)～10月24日(木)

## ★試験日

2024年11月8日(金)午前・午後

## ★受験資格

1. 大学卒業者またはそれと同等の学力を有すると本校において認められた者。
2. 受洗後2ヶ年以上の忠実な教会員であり、伝道の召命を受け、所属教会牧師と役員会の推薦する者であること。